

ムシガレイの成長と漁獲状況

福島県水産試験場 水産資源部

1 部門名

水産業 - 資源管理 - その他のカレイ類

2 担当者

千代窪孝志

3 要旨

ムシガレイは、これまで本県海域の漁獲量が非常に少なかったが、2008年は県南海域の一部で非常に好漁であった。この特異的な漁獲状況を記録するとともに、本種の生態的知見を整理する。

- (1) 2008年は60.4t、約2,500万円の水揚げがあり、2000年以降最も好漁であった。底びき網、刺し網で漁獲され、特にいわき地区の小底の漁獲量が多く(図1)、漁場は広野火発から四倉沖までの県南海域における水深50～70mが中心であった。
- (2) 主要な水揚げ市場である久之浜魚市場における漁獲サイズは、全長22～27cmが主体で、12月には25cmを超える個体の割合が高かった(図2)。
- (3) 調査船のトロール調査採集個体を整理した結果、3月を起算とすると、1年で全長15～20cmまで成長することから、主分布域である日本海西区に比べ成長が速いことが明らかとなった。また、2008年12月現在、漁獲の主体となっている群は1.75歳(2007年級)と推測された(図3)。この群は雌雄の成長差が認められ、1歳以降に雌雄差が生じると推察された(図4)。
- (4) 胃内容物はイボイチョウガニ、キシエビ等の出現頻度が高く、甲殻類が主要な餌料であることが明らかとなった。

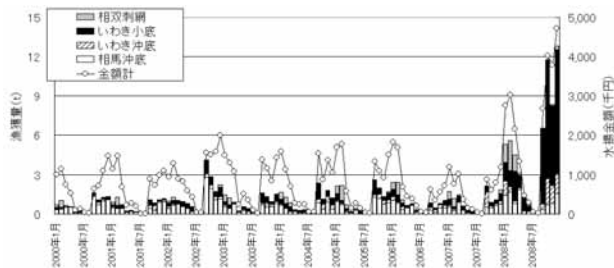


図1 地区別、漁法別漁獲状況

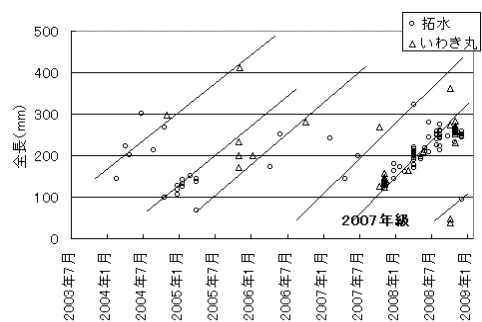


図3 調査船調査による採集状況

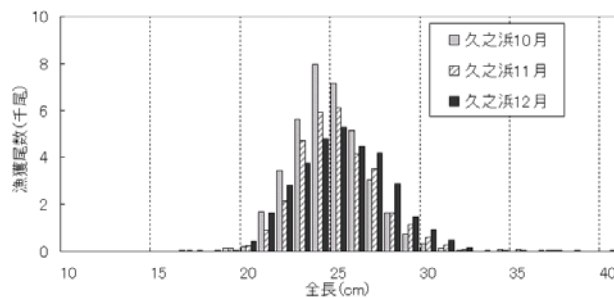


図2 全長別漁獲尾数

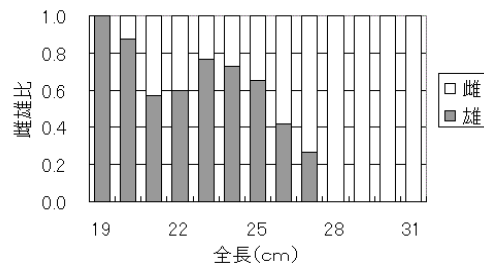


図4 全長別雌雄比

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度試験成績概要(2009)
- (2) 今井千文・宮崎義信(2005). 耳石解析によるムシガレイ日本海西部群の成長モデルの再検討. 水産大学校研究報告, 53(1), 21-34